小ゆび折り年數へては今更にさびしうなりぬ聲や立てまし。時折りは忘れやせむと我が年を我が名をひとり口ずさみする。火桶などかこみてあまた語らへば手の氣にかゝる冬の夜哉。もの思ふわれさまたげん何ものとあらずうれしき天となりにけり。明日の日はわれ知らねどもしかれどもゆきつく迄をゆき〳〵てみまし。世馴れたる人のよくするあしらひをそと眞似てわが心笑ひぬ。電燈のふと消えてけるたまゆらにうれしくもわきぬ幼き心。つくねんと眺めてあればともすれば君も見えなく我も見えなく。なにやらむものゝ失せたるこゝちする余りに多くかたりし我は。口とくもあらがひければわが心うつろになりぬさびしいかなや。蛇が來る盗人が來るとひたぶるに恐ろしかりし夜の口笛。文机に雛ならべて友あまたすわれはそゞろさびしうなりぬ。文机に雛段なんどしつらへるしばしの我の和げる心。雛祭るかゝるすさびのいつまでもうれしといふがうれしかりけり。（破常）

ギリシヤの地山高く水清きこと今尙千古の如し。ローマの府繁榮の津にして文化の中心たること古昔に讓らず。而も古の文化にして富强なる民族社會は今何の所にか在る。古の猶太國は大民族なり。一度その社會組織の滅亡せしより其の子孫離散して世界に漂泊す。今の猶太人は智巧人に絶し、財力他を壓す。歐州人の畏れて忌む所たり。而も歸するに故國なく他人の國に浮浪して其の苛酷なる鞭韃に甘んず。個人智にして且つ富むといへども、合同して民族社會を成し、其の獨立を維持するにあらざれば、以て世界生存競爭に對峙する能はざること知るべきなり。—愛國心—（穗積八束）

彙報

◉第廿八回文科學術談話會記事

大正三年二月二十一日開催しました。その席上で最近歐州から御歸朝になりました保科先生から興味あるお話を承ることが出來ましたことを深く先生に感謝致します。

講演順序

一將來の婦人　保科　先生
一中世の心に就て　文二　荻野よしの
一東京市の交通　文三　窪田　けい

本會も次第に發展に向ひつゝありますがより自由なより充實したものにせねばならぬと存じます。何處にかうつろがあるやうな氣がしてなりません。會員諸姉の御努力を切望します。

◉退會者（文科會賛助員）

阿部　みな　大正三年一月退會
相川　みほ　仝
岩井　ます　仝
五十嵐せい　仝
大野　ゆき　死亡
加藤　雛　明治四十五年退會
白川　まり　大正三年一月退會
篠木　千代　退會
高園　すゞ　大正三年二月退會
中川　いと　退會
濱野　ひで　大正二年十一月退會

◉第七回會計報告

収入　金八拾參圓五拾貳錢
内譯
金參拾圓貳拾壹錢　前より繰越高